

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科午後コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員		須田 正志 先生	
授業科目名		保健体育 I		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30 (2)	授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>保健体育教員免許を有し、整形外科でトレーニング指導やリハビリテーションの経験を持つ教員が柔道整復学の基盤である骨と関節の構造について授業を行い、その用語と細部を理解する授業を行う。専門用語が多くなるため、しっかりと復習を行い医学用語を習得してほしい。</p>											
<p>〔到達目標〕</p> <p>柔道整復学(骨折・脱臼・軟部組織損傷等)の習得には人体構造の正確な理解が必要不可欠である。ここでは人体の構造としくみを関節・体表解剖を中心に学習する。</p>											
<p>〔使用教材、参考文献等〕</p> <p>教員作成の冊子・配布プリント 柔道整復学・理論編 解剖学</p>						<p>〔準備学習・時間外学習〕</p> <p>専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習をしておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。</p>					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	授業概要の説明					今後勉強する概要について理解し、全体像を把握する。					
2	全身の骨の数					全身の骨の数について知る。 代表的な骨の名称について知る。					
3	からだに関する用語1					からだに関する医学的用語を知り、理解する。					
4	からだに関する用語2					からだに関する医学的用語の理解を深め、正しく書けるようになる。					
5	柔道整復理論の用語					柔道整復師の業務範囲について知る。 柔道整復師の業務に関する用語を理解する。					
6	身体の断面・方向					身体の断面に関する用語を知る。 身体の断面上での運動に関する用語を知る。					
7	骨の名称:脊椎・胸郭					椎骨や、胸郭を構成する骨の名称知り、正しく書けるようになる。					
8	復習					復習を行う。					
9	骨の名称:上肢1					上肢帯骨に分類される骨を知り、それらの骨の名称を知る。また、正しく書けるようになる。					
10	骨の名称:上肢2					自由上肢に分類される骨を知り、それらの骨の名称を知る。また、正しく書けるようになる。					
11	骨の名称:下肢1					下肢帯骨に分類される骨を知り、それらの骨の名称を知る。また、正しく書けるようになる。					
12	骨の名称:下肢					自由下肢骨に分類される骨を知り、それらの骨の名称を知る。また、正しく書けるようになる。					
13	骨格筋1					頭部・体幹に存在する筋の名称と位置を知る。また、正しく書けるようになる。					
14	骨格筋2					上肢・下肢に存在する筋の名称と位置を知る。また、正しく書けるようになる。					
15	期末テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
<p>〔評価について〕</p> <p>評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。 授業ごとに小テストを行う。</p>						<p>〔特記事項〕</p> <p>毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行う。</p>					

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科午後コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名		キャリアデザイン講座		必修/選択	必修	授業形態	その他	時間数(単位)	30 (2)	授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>長年、整形外科で勤務し、整形外科疾患や外傷に対するリハビリテーションを行ってきた柔道整復師専科教員が、個人ワークやグループワークを取り入れながら、社会人として必要な資質やコミュニケーション能力を身につける。また、講演や演習を通じて社会人や医療人について理解してほしい。</p>											
<p>〔到達目標〕</p> <p>社会人、柔道整復師になることに対する意欲を高め、卒業後の自己を構想できるようになる。また、将来に限らず学生生活をさらに充実させるきっかけをつくる。</p>											
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕					
						社会人としてのマナーをあらかじめ調べておくことが望ましい。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	導入研修Ⅰ 柔道整復師の成り立ちと資格の意義					柔道整復師の歴史を知り、資格の業務範囲等を理解する。					
2	導入研修Ⅰ 柔道整復師としての使命と必要な知識・技術Ⅰ					柔道整復師として現場に出たときに必要な知識に触れ、また、その技術を知る。					
3	導入教育Ⅰ 柔道整復師としての使命と必要な知識・技術Ⅱ					柔道整復師として現場に出たときに必要な知識に触れ、また、その技術に関する理解を深める。					
4	導入研修Ⅰ 柔道整復師の職域について					柔道整復師の業務範囲についての理解を深める。					
5	導入研修Ⅰ 柔道整復師になるために必要な相互支援関係構築、コンセンサスゲーム、コミュニケーションゲーム等					クラスメイトとのコミュニケーションを取り、お互いのことについて知る。					
6	導入研修Ⅰ 柔道整復師になるために必要な相互支援関係構築、コンセンサスゲーム、コミュニケーションゲーム等					クラスメイトとのコミュニケーションを取り、相互理解を深める。					
7	導入研修Ⅰ 目標設定(目標としての柔道整復師像)					将来の自分の柔道整復師としての目標を立て、卒業後の将来像を想像する。					
8	外部研修 柔道整復師の各職域に必要な知識・技術					柔道整復師が活躍できる、様々な現場に必要な知識、技術を知ることができる。					
9	外部研修 在学中のキャリア設計と卒後のキャリア開発について					卒業後の具体的な目標を立て、それを実現するために在学中にすべきことを計画する。					
10	外部研修 柔道整復師に必要な課題解決方法(治療院)					治療院で働いた時に起こり得る事象を考え、それを解決するための方法を見つけ出すことができる。					
11	外部研修 柔道整復師に必要な課題解決方法(トレーナー他)					トレーナーとしてスポーツ現場で働いた時に起こり得る事象を考え、それを解決するための方法を見つけ出すことができる。					
12	導入研修Ⅱ 柔道整復師に必要な社会人としてのマナー・接遇					卒業して社会人となった時に必要なマナーを知り、それを実践できるようにする。					
13	導入研修Ⅱ 柔道整復師に必要な社会人としてのマナー・接遇					柔道整復師として働いた時に必要な接遇を知り、それを実践できるようにする。					
14	導入研修Ⅲ 講演:医療のプロとなる心がまえ(小峯 力先生)					講演を聴講し、医療人になるための心構えを知り、そのために在学中にすべきことを知る。					
15	導入研修Ⅲ 講演:医療のプロとなる心がまえ(小峯 力先生)					講演を聴講し、医療人になるための心構えを知り、そのために在学中にすべきことを知る。					
〔評価について〕						〔特記事項〕					
出席 レポート提出											

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科午後コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員		春原 正隆先生	
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
解剖学 I									
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>歯科大学の解剖学講座で教鞭をとる教授の教員が、臨床経験を含めた解剖学の講義を行う。 人の体を扱う柔道整復師として必要最低限の知識であり、その知識を臨床の現場にリンクさせることができるよう指導を行う。</p>									
<p>〔到達目標〕</p> <p>柔道整復師として必要な解剖学の知識を理解する。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕 解剖学 (医歯薬出版)					〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習をしておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	解剖学の意義・分類			解剖学の意義や学問としても分類を理解する。					
2	解剖学の基礎①			細胞および組織について理解する。					
3	解剖学の基礎②			人体の発生と器官について理解する。					
4	脈管系1			体循環と肺循環について理解する。					
5	脈管系2			血管の形態と構造、心臓の構造について理解する。					
6	脈管系3			心臓壁の構造、刺激伝導系、心臓の脈管について理解する。					
7	脈管系4			大動脈から頭頸部の脈管について理解する。					
8	確認テスト・復習			復習を行う。					
9	脈管系5			上肢の脈管について理解する。					
10	脈管系6 確認テスト			胸部、腹部の脈管について理解する。					
11	上肢・胸部・腹部の動脈			上肢・胸部・腹部の循環器系の構成を理解する。 主要血管の走行を理解する。					
12	骨盤部・下肢の動脈			骨盤部・下肢の循環器系の構成を理解する。 主要血管の走行を理解する。					
13	大静脈・門脈・胎児循環			身体各部の静脈の構成を理解する。 門脈系、下大静脈のとその根の走行を理解する。					
14	リンパ系・リンパ性器官			全身のリンパ管の構成と走行を理解する。					
15	期末テスト 解説			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。 授業ごとに小テストを行う。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行う。				

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午後コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員		本多 剛先生	
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
<p>[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 専門分野の教員要件を有し、長年にわたり医療系専門学校の教育に貢献してきた教員が、柔道整復師として必要な人体の生理現象を講義する。柔道整復師は患者に医療行為を行うため、医療行為による効果やどのような現象が体の中で起っているのかを理解する必要がある。</p>									
<p>[到達目標] 生命現象を多彩な視点で取り扱う生理学は、解剖学と並び、医学の根幹をなす重要な学問領域である。本講義では、各組織の機能と人体の影響への関連性を理解する。</p>									
[使用教材、参考文献等] 生理学(南江堂)					[準備学習・時間外学習]				
回	[授業概要]			到達目標(できるようになること)					
1	神経系の生理① 神経組織、興奮の発生と伝導、神経線維			神経組織の機能、興奮の発生機序と伝導様式、神経線維の種類について理解する。					
2	神経系の生理② シナプス、興奮の伝達様式、神経伝達物質、受容体、脳神経			シナプスの構造、興奮伝達の特徴、神経伝達物質と受容体の関係、脳神経の種類について理解する。					
3	神経系の生理③ 反射弓と反射の種類、脊髄、伝導路、脳幹			反射の成り立ちと種類、ベル-マジャンディーの法則、伝導路の種類、脳幹の機能について理解する。					
4	神経系の生理④ 間脳、小脳、大脳、睡眠と脳波			間脳と小脳の機能、大脳の区分と機能局在、睡眠の種類と脳波との関係について理解する。					
5	自律神経の生理 交感神経、副交感神経、自律神経支配			自律神経の分類と機能、交感神経と副交感神経の生理作用の相違について理解する。					
6	神経系の解剖 総論 神経系の発生、神経細胞、神経線維、神経系の分類、確認テスト			神経系の成り立ち、神経細胞と神経線維の種類、神経系の分類について理解する。					
7	大脳の解剖① 中枢神経の区分、脳室、髄膜、確認テスト			脳の区分、脳室の構造、髄膜の種類と構造について理解する。					
8	大脳の解剖② 大脳皮質、大脳白質、大脳核、確認テスト			大脳の区分と機能局在、大脳白質の線維、大脳核の種類と機能について理解する。					
9	間脳と脳幹、小脳の解剖 間脳、中脳、橋、延髄、小脳、確認テスト			間脳の構造と機能、脳幹の構造とそれぞれの中枢・神経核、小脳の構造と機能について理解する。					
10	脳の脈管 脳動脈、脳静脈洞、確認テスト			脳への血液供給の仕組みと脳の静脈還流について理解する。					
11	脊髄の解剖① 脊髄、上行性伝導路、確認テスト			脊髄の構造と機能、脊髄神経の成り立ち、体性感覚の伝導路について理解する。					
12	脊髄の解剖② 上行性伝導路、下行性伝導路、確認テスト			特殊感覚の伝導路、錐体路、錐体外路について理解する。					
13	復習① 神経生理			興奮の発生と神経線維の分類・機能を中心に復習して理解を深める。					
14	復習② 神経解剖			中枢神経の構造を復習して理解を深める。					
15	期末テスト 解説			テストにより効果測定を行い、習得度を把握し、理解度を深める。					
[評価について] 評価はmoodleで実施する確認テスト(20点)と期末テスト(80点)の合計100点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。					[特記事項] 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。				

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科午後コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員		石野 竜平先生	
授業科目名		生理学Ⅱ		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30 (2)	授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>専門分野の教員要件を有し、長年にわたり医療系専門学校の教育に貢献してきた教員が、柔道整復師として必要な人体の生理現象を講義する。柔道整復師は患者に医療行為を行うため、医療行為による効果やどのような現象が体の中で起っているのかを理解する必要がある。</p>											
<p>〔到達目標〕</p> <p>生命現象を多彩な視点で取り扱う生理学は、解剖学と並び、医学の根幹をなす重要な学問領域である。本講義では、各組織の機能と人体の影響への関連性を理解する。血液、循環、尿の生成と排泄について順に理解する。</p>											
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕					
生理学(南江堂)、必要に応じプリントを配布する。						専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習をしておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	細胞の構造と機能、拡散・浸透・ろ過、受動輸送と能動輸送					人体の細胞の基本的な機能と働きについて理解する。					
2	血液の生理学: 血液の役割、血液の組成					血液の様々な役割について理解する。また、血液の成分を理解する。					
3	免疫機能、血液型					血液の成分の中でも、特に免疫に関与する血液成分について理解を深める。					
4	血液凝固					血液の成分の中でも、特に止血に関する血液成分や、その仕組みについて理解を深める。					
5	体液の生理学: 体液の区分と水バランス、体液のイオン組成、体液の恒常性を維持するしくみ					体液の区分、イオン組成、ホメオスタシスを維持する仕組みについて理解する。					
6	循環の生理学: 心臓の機能、心筋の基本的性質					心臓の構造、役割について知り、その基本的な性質についての理解を深める。					
7	心電図					心電図の波形と成分を知る。また、その誘導法を理解することができる。					
8	復習					復習を行う。					
9	不整脈、心臓のポンプ機能					不整脈について知る。また、心臓の収縮時の心内圧と容積の変化について理解する。					
10	血管系: 各血管の構造と働き					血管の種類とその構造と役割の違いを理解する。					
11	血管系: 血圧、リンパ管系					血圧に関する基本的な用語を理解する。また、測定法を知る。さらに、リンパ管系の走行を知る。					
12	循環の調節					循環の調節に関する器官や受容器を知る。また、循環の調節機構について理解する。					
13	局所循環					冠循環、脳循環、肺循環、皮膚循環、骨格筋の循環について理解する。					
14	脳脊髄液循環					脳脊髄液の生成から吸収までの過程を理解する。					
15	期末テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕						〔特記事項〕					
評価は筆記試験で行う。筆記試験は確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。授業ごとに小テストを行う。						毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。必要に応じ配布プリントによる授業を行う。					

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科午後コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員		木下 潤一 先生	
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 講道館柔道6段を持ち、江戸川区柔道会理事として青少年の育成および柔道普及に尽力している柔道整復師専科教員が、授業を通じて柔道の精神と健康な体作りを指導する。 授業の中だけでなく、日々の生活の中にも柔道の精神を頭において行動して欲しい。</p>									
<p>〔到達目標〕 柔道の礼法および精力善用、自他共栄の精神を身に付けさせる。相手の人格を尊重し受身をしっかり覚え、基本動作を身に付ける。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕 柔道着					〔準備学習・時間外学習〕 初めて行う技術であるため、授業で行ったことを反復練習することによる、基礎的な技術の復習を行い、確実に身につけることが望ましい。				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	授業の流れの説明 柔道衣の名称と着用の仕方、礼法、準備体操			柔道の授業の全体像を把握できる。また、柔道着の正しい着用ができるようになる。					
2	礼法と受身 礼法(立礼・坐礼)、準備運動の手順・後受身			立礼と座礼を理解し、正しい礼法ができる。また、怪我をしないための後受身を習得する。					
3	礼法と受身 横受身・前受身			怪我をしないための横受身と前受身を習得する。					
4	礼法と受身 前方回転受身(説明)			怪我をしないための前方回転受身を習得する。					
5	礼法と受身 前方回転受身(個人練習)			前方回転受身の個人練習を行い、きれいな受身が取れるようになる。					
6	礼法と受身 前方回転受身(グループ学習)			前方回転受身のグループ練習を行うことで、お互いの受身で不十分な箇所を指摘しあえる。					
7	まとめ 試験前のポイント説明			ここまでの総復習をし、技術を習得する。					
8	確認テスト 解説			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	形(浮落の技のみ)と寝技(袈裟固めと防御) 実演して全体動作			浮落の動きを理解し、実際にできるようになる。 袈裟固を習得する。					
10	形(背負投の技のみ)と寝技(上四方固と防御) 実演して全体動作			背負投げの動きを理解し、実際にできるようになる。 上四方固の形を習得する。					
11	形(浮落立ち回り)と寝技(横四方固と防御) 実演して全体動作			浮落をきれいな形でできるようになる。 横四方固を習得する。					
12	形(背負投立ち回り)と寝技(縦四方固めと防御) 実演して全体動作			背負投をきれいな形でできるようになる。 縦四方固を習得する。					
13	形(浮落試験方式)と寝技(肩固と防御) 実演して全体動作			浮落の形を一連の流れで行い、不十分な部分を把握する。 肩固を習得する。					
14	形(背負投試験方式)と寝技(後袈裟固と防御) 実演して全体動作			背負投の形を一連の流れで行い、不十分な部分を把握する。 後固を習得する。					
15	期末テスト 解説			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は実技試験で行う。 試験は確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。 授業ごとに小テストを行う。					〔特記事項〕 授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。難しい技術などがあれば授業内で担当教員に積極的にアドバイスをもらうこと。				

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科午後コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員	
授業科目名						大竹 千生先生	
衛生学・公衆衛生学		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2) 授業回数 15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>学生にとって到達目標である国家試験合格のために必要な知識習得を主な目的とした授業展開を行う。また、「衛生学・公衆衛生学」は、健康の保持増進や生活の質の向上の大切さを学ぶ科目であるため、それらの知識を活用し臨床における「健康へのアプローチ」を構築することを学生に望む。そのため、口腔衛生学会認定医として自身が学び実践する諸事項・諸事象を踏まえた「医療人として人々に貢する」ということを意識できるような授業を心がけ実施する。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>国家試験合格のための知識の習得とともに、現場に出たときに医療従事者として身に着けているべき考え方や教養、倫理観等の習得を目標とする。</p>							
〔使用教材、参考文献等〕				〔準備学習・時間外学習〕			
衛生学・公衆衛生学 (株)南江堂 発行 公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 鈴木庄亮・小川正行・横山和仁・黒沢美智子・竹内一夫・谷川武 著							
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)			
1	公衆衛生学とは / 健康の概念			公衆衛生学の意義、健康の定義やアプローチ等を理解する			
2	人口統計 / 予防の概念			人口静態・動態統計と主な指標、予防の3相5段階について知る			
3	集団検診とスクリーニング / 感染症の概要			集団検診とスクリーニングの意義・特徴、感染症の基礎知識や成立の3条件について知る			
4	ウイルス感染症・細菌感染症・その他の感染症・院内感染			様々な感染症の特徴について知る。また院内感染の諸問題について理解する			
5	感染症の予防対策(感染症法による類型と届け出制、等)			感染症の予防の原則は3条件への対策であることとその内容について知る			
6	消毒			消毒・滅菌等の定義とその方法について知る			
7	1～6回のおさらい			1～6回の内容を振り返り、重要な部分を把握する			
8	環境衛生(環境保健)の概要/地球環境問題/環境の把握・評価			環境の分類、環境と人との関係性、地球環境問題、環境の分析法等について知る			
9	環境要因 確認テスト			主な物理的・化学的・生物的環境要因について知る			
10	公害 / 空気の衛生 / 環境への行政的な取り組み 等 確認テスト			空気の正常・異常成分、環境への政策や管理、最近の環境問題について知る			
11	生活環境;水・住居・食品衛生 確認テスト			水に関する環境、住居環境、食中毒について知る			
12	食品衛生活動・食品に関する法律とその内容/廃棄物処理 確認テスト			食の安全に関する行政施策やそのための法律と内容について知る。また、廃棄物の種類や処理法について知る			
13	母子保健の意義・指標			母子保健の意義、用語、諸指標について知る			
14	母子保健施策と前期の振り返り			市町村や都道府県が実施する母子保健施策について知る。また、前期を振り返り、期末試験に備える			
15	期末試験						
〔評価について〕				〔特記事項〕			
講義内容についての小テスト実施 / 期末試験 当初の前期中間試験実施を変更し、その分の評価を第9～12回の4回分での課題(小テスト形式)40点満点に変えるものとする。(期末試験は60点満点とする)				適宜、プリント配布			

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科午後コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員		中村 亮 先生	
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	15 (1)	授業回数	8
職業倫理									
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 柔道整復師の資格を持ち、接骨院の臨床現場で、施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が、実際に医療現場で起こり得る具体的な事例を挙げながら、グループワークなどを用いて学生にその対策を考えさせる授業を行う。</p>									
<p>〔到達目標〕 柔道整復師として、人々の健康づくりに携わる医療人として求められる知識や教養、倫理観の習得を目標とする。</p>									
<p>〔使用教材、参考文献等〕 衛生学・公衆衛生学(南江堂) 必要に応じプリントを配布する</p>					<p>〔準備学習・時間外学習〕 毎回の授業内容を自宅で復習し、職業倫理に関する自分の考えをまとめておく。</p>				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	医療従事者の職業倫理(1)				職業倫理の意味と必要性について考え、倫理観を高める。				
2	医療従事者の職業倫理(2)				現代的倫理観の経緯を説明できる。				
3	柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応(1)				インフォームド・コンセントとインフォームド・アセントを理解する。				
4	柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応(2) 確認テスト				医療従事者の守秘義務を理解する。				
5	柔道整復師の社会的責任と対応(1)				医療契約を理解し、説明が出来る。				
6	柔道整復師の社会的責任と対応(2)				医療事故、医療過誤、ヒヤリ・ハットを理解する。				
7	医療における情報と責任				患者の個人情報保護を理解し説明が出来る。				
8	単位認定試験 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
<p>〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。</p>					<p>〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行う。</p>				

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科午後コース	学年	1	開講区分	前期	担当教員 中村 亮 先生	
授業科目名 社会保険制度	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	15 (1) 授業回数 8
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 柔道整復師の資格を持ち、接骨院の臨床現場で、施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が、現在の日本の社会保障制度の仕組みや保障内容についての授業を行う。授業の中で、グループワークなどを用いて学生自身に考えさせることで、より理解を深める。</p>						
<p>〔到達目標〕 柔道整復師になるにあたって必要な、現在の日本の社会保障制度についての仕組み・種類や、具体的な保障内容について知る。</p>						
<p>〔使用教材、参考文献等〕 衛生学・公衆衛生学(南江堂) 必要に応じプリントを配布する</p>			<p>〔準備学習・時間外学習〕 毎回の授業内容を自宅で復習し、社会保障制度に関する自分の考えをまとめておく。</p>			
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)		
1	社会保障とは			社会保障の内容・機能を理解する。		
2	社会保険制度とは			社会保険制度の種類や仕組みを理解する。		
3	医療保険制度(1)			医療保険の目的や現状について理解する。		
4	医療保険制度(2)			保険診療の概要を理解し説明することが出来る。		
5	確認テスト 療養費制度			療養費制度の概要を理解し説明することが出来る。		
6	柔道整復療養費(1)			柔道整復療養費概要を理解し説明することが出来る。		
7	柔道整復療養費(2)			柔道整復療養費の算定や推移を理解し説明することが出来る。		
8	単位認定試験 解説			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。		
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
<p>〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。</p>			<p>〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行う。</p>			

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午後コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員		箭柏えり先生	
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>柔道整復師の資格を持ち、臨床現場で経験を積み医療系学校の教育に貢献してきた柔道整復師専科教員が柔道整復学に関わる基本的概念・知識を教授する。</p>									
<p>〔到達目標〕</p> <p>柔道整復学の各論を学び、外傷や障害に対する理解を深める。傷害の程度によっては、患者に対しより重い責任を持つ事になり、そのためにも正しい知識を持つ事が重要となる。傷病者に対して自信をもって処置を行うことを目標とする。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
柔道整復学・理論編 柔道整復学・実技編 (南江堂)					専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習をしておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	人体に加わる力 損傷時に加わる力①			人体に加わる力の語句とその意味を理解する。 損傷時に加わる力の種類を理解する。					
2	損傷時に加わる力② 骨の形態と機能			損傷時の力に影響を与える要素を理解する。 骨の基本的解剖と役割を理解する。					
3	骨の損傷①			骨折の定義を理解する。骨折の性状による分類、骨損傷の程度による分類、骨折線の方向による分類を理解する。					
4	骨の損傷②			骨折部と創部との交通の有無による分類、骨折の数による分類、外力の働いた部位による分類、外力の働き方による分類を理解する。					
5	骨の損傷③			外力の働き方による分類を理解する。					
6	骨の損傷④			骨折の部位による分類、受傷後の経過による分類を理解する。 骨折の分類の全体を確認する(まとめ)。					
7	確認テスト			損傷時に加わる力、骨の損傷に関する問題演習を実施、自身の習熟度を確認する。					
8	骨折の症状			骨折の全身症状と局所症状を理解する。					
9	骨折の合併症①			骨折の併発症と続発症を理解する。					
10	骨折の合併症②			骨折の併発症と続発症を理解し、どのような症状が出るのかを理解する。					
11	骨折の合併症③			骨折の後遺症について知る。					
12	骨折の合併症④			骨折の後遺症について知り、どのような症状が出るか理解する。					
13	小児骨折・高齢者骨折の特徴 骨折の癒合日数			年齢層によって注意しなければならない骨折の症状と骨癒合日数を理解する。					
14	骨折の治癒過程			骨折の治癒過程と、骨折治癒に影響を与える要因を理解する。					
15	期末テスト			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕					〔特記事項〕				
評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。 授業ごとに小テストを行う。									

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午後コース 授業科目名 基礎柔道整復学Ⅱ	学年 1 必修/選択 必修	開講区分 前期 授業形態 講義	担当教員 三浦 千栄先生 時間数(単位) 30(2) 授業回数 15
[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 柔道整復師および日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの資格を持ち、接骨院やスポーツ現場での臨床現場で、怪我や負傷した選手の施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が、柔道整復学に関わる基本的概念・知識を教授する。			
[到達目標] 柔道整復学の各論を学び、外傷や障害に対する理解を深める。 傷害の程度によっては、患者に対しより重い責任を持つ事になり、そのためにも正しい知識を持つ事が重要となる。 傷病者に対して自信をもって処置を行うことを目標とする。			
[使用教材、参考文献等] 柔道整復学・理論編 柔道整復学・実技編 (南江堂)		[準備学習・時間外学習] 専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習をしておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。	
回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)	
1	関節の損傷 関節の構造と機能	関節損傷に関する基本用語を知る。 関節の構造と、機能・形状による分類を理解する。	
2	関節の損傷:軟骨組織	関節軟骨の組成と、損傷時の特徴を理解する。	
3	関節の損傷:関節包、滑液、靭帯	関節包、滑液、靭帯の役割と、損傷時の特徴を理解する。	
4	関節の損傷:関節円板、滑液包	関節円板、滑液包の役割と、損傷時の特徴を理解する。	
5	関節の損傷:関節唇、血管、神経	関節唇、血管、神経の役割と、損傷時の特徴を理解する。	
6	関節損傷の分類 捻挫・脱臼の定義	関節損傷の分類を知る。また、捻挫と脱臼の定義を理解し、両者の違いを知る。	
7	脱臼の症状	脱臼の固有症状を理解し、鑑別ができるようになる。	
8	確認テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。	
9	脱臼の分類	脱臼の固有症状を理解し、鑑別ができるようになる。	
10	脱臼の合併症・整復障害	脱臼の合併症と、その症状について理解し、鑑別できるようにする。また、整復障害となるものについて理解する。	
11	筋の損傷①	筋の構造と機能について理解し、筋損傷が発生する要因や症状について理解する。	
12	筋の損傷② 腱の損傷①	筋損傷の治癒機序について理解する。また、腱の構造と機能について理解し、腱損傷が発生する要因や症状について理解する。	
13	腱の損傷② 末梢神経の損傷①	腱損傷の治癒機序について理解する。また、末梢神経の機能と構造について理解する。	
14	末梢神経の損傷②	末梢神経損傷が発生する要因や症状について理解する。また、治癒機序について理解する。	
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。	
[評価について] 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。		[特記事項] 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。必要に応じ配布プリントによる授業を行う。	

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午後コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員		集中講座	
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>臨床経験を持つ柔道整復師専科教員が、柔道整復学に関わる基本的概念・知識を教授する。</p>									
<p>〔到達目標〕</p> <p>柔道整復学の各論を学び、外傷や障害に対する理解を深める。傷害の程度によっては、患者に対しより重い責任を持つ事になり、そのためにも正しい知識を持つ事が重要となる。傷病者に対して自信をもって処置を行うことを目標とする。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学・理論編(南江堂) 必要に応じプリントを配布する				〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習をしておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。					
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	頭部・顔面骨折(1)			頭部骨折の発生機序、症状、治療法、後遺症を理解し、記憶する。					
2	頭部・顔面骨折(2)			顔面骨折の発生機序、症状、治療法、後遺症を理解し、記憶する。					
3	顎関節脱臼(1)			脱臼の分類と前方脱臼について理解する。					
4	復習			習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
5	顎関節脱臼(2)			整復法と側方、後方脱臼について理解する。					
6	頭部、顔面の軟部組織損傷			概要、発生機序、分類、症状、合併症、治療法、予後について理解する。					
7	頸部の損傷(1)			頸椎の機能解剖と頸部損傷の概要について理解する。					
8	頸部の損傷(2)			頸椎骨折の発生機序、分類、症状、合併症、治療法、予後について理解する。					
9	復習			習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
10	頸部の損傷(3)			頸椎脱臼の発生機序、分類、症状、合併症、治療法、予後について理解する。					
11	頸部の軟部組織損傷			概要、発生機序、分類、症状、合併症、治療法、予後について理解する。					
12	頸部の注意すべき疾患(1)			軟部組織損傷との鑑別診断で重要な疾患の概要を理解する。					
13	頸部の注意すべき疾患(2)			軟部組織損傷との鑑別診断で重要な疾患の概要を理解する。					
14	総復習			ここまでの内容の理解を深める。					
15	単位認定試験			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テストと期末テストの合計で評価する。評価は学則規定に準ずる。 授業ごとに小テストを行う。				〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行う。					

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科午後コース	学年 1	開講区分 前期	担当教員 三浦 光一先生
授業科目名 柔道整復実技Ⅰ	必修/選択 必修	授業形態 実技	時間数(単位) 30(1) 授業回数 15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>柔道整復師の資格を持ち、長年にわたり接骨院の臨床現場で、怪我や負傷した選手の施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が、包帯法と固定学の基礎知識と技術を指導する。包帯法は柔道整復師として絶対的に必要な基本的技術であり、他業種に負けない独自の技術である。そのため、自主練習に励み、1年間のうちにその基礎を培って欲しい。</p>			
<p>〔到達目標〕</p> <p>上肢と下肢の基本包帯法の習得を目指す。また実践を通じて包帯法の留意点や応用方法を理解する。</p>			
<p>〔使用教材、参考文献等〕</p> <p>柔道整復学・理論編 包帯固定学(医歯薬出版)</p>		<p>〔準備学習・時間外学習〕</p> <p>初めて行う技術であるため、授業で行ったことを反復練習することによる、基礎的な技術の復習を行い、確実に身につけることが望ましい。</p>	
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)	
1	包帯固定学 概説	包帯固定学の基礎的な目的や範囲、肢位、固定材料について理解する。	
2	巻き方	基礎、基本包帯法を理解する。	
3	基本包帯固定法1	手関節から肘関節までの包帯固定法を習得する。	
4	基本包帯固定法2	肘関節から肩関節までの包帯固定法を習得する。	
5	基本包帯固定法3	前腕部から手指までの包帯固定法を習得する。	
6	基本包帯固定法4	頭部の包帯固定法を習得する。	
7	総合復習	これまでの包帯法を復習し基礎の習得をする。	
8	基本包帯固定法5	これまでの包帯法を復習し基礎の習得をする。	
9	基本包帯固定法6	三角筋の使い方と上肢以外の使用方法、固定法を習得する。	
10	基本包帯固定法7 確認テスト	下肢の股関節から大腿部までの基本包帯法を習得する。	
11	基本包帯固定法8 確認テスト	下肢の膝関節周囲の基本包帯法を習得する。	
12	基本包帯固定法9 確認テスト	下腿部から足関節までの基本包帯法を習得する。	
13	基本包帯固定法10 確認テスト	足趾の基本包帯法を習得する。	
14	ギプス固定 確認テスト	膝関節のギプス固定法を習得する。	
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。	
<p>〔評価について〕</p> <p>評価は実技試験で行う。試験は確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。 授業ごとに小テストを行う。</p>		<p>〔特記事項〕</p> <p>授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。 難しい技術などがあれば授業内で担当教員に積極的にアドバイスをもらうこと。</p>	

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午後コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員		集中講座	
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>臨床経験を持つ柔道整復師専科教員が、骨折、脱臼のその症状と状態に準じた固定、包帯法を指導する。将来、臨床に出た際に必ず必要になる技術を学生のうちからしっかりと学び、有資格者としての準備をして欲しい。技術の反復練習を積極的に行ってもらおう。</p>									
<p>〔到達目標〕</p> <p>柔道整復師として一番の強みであり、仕事となる各骨折、脱臼に対する整復法、固定法を理解し習得する。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
柔道整復学・理論編 包帯固定学(医歯薬出版)					初めて行う技術であるため、授業で行ったことを反復練習することによる、基礎的な技術の復習を行い、確実に身につけることが望ましい。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	冠名包帯1				デゾー包帯の習得をする。				
2	冠名包帯2				デゾー包帯の習得をする。				
3	冠名包帯3				ウェルポー包帯の習得をする。				
4	復習				冠名包帯法の復習を行い、習得する。				
5	冠名包帯4				ウェルポー包帯の習得をする。				
6	冠名包帯5				ジュール包帯の習得をする。				
7	鎖骨骨折整復固定1				鎖骨骨折の整復法を習得する。				
8	鎖骨骨折整復固定2				副子を利用した包帯固定、8字帯を習得する。				
9	復習				理解できていないところを把握し、習得する。				
10	鎖骨骨折整復固定3				鎖骨の絆創膏固定法について習得する。				
11	肩鎖関節脱臼整復固定1				肩鎖関節脱臼の整復法を習得する。				
12	肩鎖関節脱臼整復固定2				肩鎖関節脱臼の副子を使用した固定法、テーピング固定法について習得する。				
13	冠名包帯法復習				冠名包帯法の復習を行い、習得する。				
14	復習				鎖骨の絆創膏固定法について習得する。				
15	試験				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕					〔特記事項〕				
<p>評価は実技試験で行う。</p> <p>試験は確認テストと期末テストの合計で評価する。評価は学則規定に準ずる。</p> <p>授業ごとに小テストを行う。</p>					<p>授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。</p> <p>難しい技術などがあれば授業内で担当教員に積極的にアドバイスをもらうこと。</p>				

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科午後コース	学年	1	開講区分	後期	担当教員 須田 正志先生	
授業科目名 保健体育 I	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30 (2)
					授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 保健体育教員免許を有し、整形外科でトレーニング指導やリハビリテーションの経験を持つ教員が柔道整復学の基盤である骨と関節の構造について授業を行い、その用語と細部を理解する授業を行う。 専門用語が多くなるため、しっかりと復習を行い医学用語を習得してほしい。</p>						
<p>〔到達目標〕 柔道整復学(骨折・脱臼・軟部組織損傷等)の習得には人体構造の正確な理解が必要不可欠である。ここでは人体の構造としくみを関節・体表解剖を中心に学習する。</p>						
<p>〔使用教材、参考文献等〕 教員作成の冊子・配布プリント 柔道整復学・理論編 解剖学</p>			<p>〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習をしておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。</p>			
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)		
1	期末テストの解答・解説			前期期末テストの問題について理解する。		
2	一般的な関節の構造			関節の構造の基礎を理解する。		
3	各関節の構造1			上肢の関節の構造を理解する。		
4	各関節の構造2			体幹と脊椎の関節の構造を理解する。		
5	各関節の構造3			骨盤と股関節の関節の構造を理解する。		
6	各関節の構造4			下肢の関節の構造を理解する。		
7	各関節の構造5			各関節の構造について今まで学習した範囲を理解できる。		
8	復習			復習を行う。		
9	身体のランドマーク			ランドマークについて理解する。		
10	身体のランドマーク1			頭部のランドマークを理解する。		
11	身体のランドマーク2			上肢のランドマークを理解する。		
12	身体のランドマーク3			体幹のランドマークを理解する。		
13	身体のランドマーク4			骨盤と下肢のランドマークを理解する。		
14	身体のランドマーク5			今までに学習したランドマークの復習を行い、理解する。		
15	期末テスト 解説			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。		
<p>〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(60点)と確認テスト(40点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。 授業ごとに小テストを行う。</p>			<p>〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行う。</p>			

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科午後コース	学年	1	開講区分	後期	担当教員 春原 正隆先生	
授業科目名	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30 (2)
解剖学 I					授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 歯科大学の解剖学講座で教鞭をとる教授の教員が、臨床経験を含めた解剖学の講義を行う。 人の体を扱う柔道整復師として必要最低限の知識であり、その知識を臨床の現場にリンクさせることができるよう指導を行う。</p>						
<p>〔到達目標〕 柔道整復師として必要な解剖学の知識を理解する。</p>						
<p>〔使用教材、参考文献等〕 解剖学 (医歯薬出版)</p>			<p>〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習をしておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。</p>			
回	〔授業概要〕		到達目標(できるようになること)			
1	内臓学総論 消化管①		内臓系の種類を知る。 消化器臓器の解剖学的な位置を知る。			
2	消化管②		消化管壁の構造と機能について理解する。			
3	消化管③		消化器系の構成臓器の連続的なつながりを理解する。			
4	肝臓・膵臓		肝臓・膵臓などの実質臓器の内景を知り、その機能を理解する。			
5	腹膜		腹膜の構造について理解する。			
6	呼吸器①		呼吸器系臓器の名称と機能を理解する。			
7	呼吸器②		呼吸器系の各臓器の位置関係を知り、その連続的なつながりを理解する。			
8	確認テスト・復習		復習を行う。			
9	運動系 筋1		頭部の筋を理解する。			
10	運動系 筋2		頸部の筋を理解する。			
11	運動系 筋3		胸部の筋を理解する。			
12	運動系 筋4		腹部と背部の筋を理解する。			
13	運動系 筋5		上肢の筋を理解する。			
14	運動系 筋6		下肢の筋を理解する。			
15	期末テスト 解説		テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。			
<p>〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。 授業ごとに小テストを行う。</p>			<p>〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行う。</p>			

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午後コース	学年	1	開講区分	後期	担当教員				
授業科目名					本多 剛先生				
生理学 I	必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">時間数 (単位)</td> <td style="width: 50%;">授業 回数</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">30 (2)</td> <td style="text-align: center;">15</td> </tr> </table>	時間数 (単位)	授業 回数	30 (2)	15
時間数 (単位)	授業 回数								
30 (2)	15								
<p>[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 専門分野の教員要件を有し、長年にわたり医療系専門学校の教育に貢献してきた教員が、柔道整復師として必要な人体の生理現象を講義する。柔道整復師は患者に医療行為を行うため、医療行為による効果やどのような現象が体の中で起っているのかを理解する必要がある。</p>									
<p>[到達目標] 生命現象を多彩な視点で取り扱う生理学は、解剖学と並び、医学の根幹をなす重要な学問領域である。本講義では、各組織の機能と人体の影響への関連性を理解する。</p>									
[使用教材、参考文献等] 生理学(南江堂)			[準備学習・時間外学習]						
回	[授業概要]		到達目標(できるようになること)						
1	神経の基本的機能: 神経細胞の形態 静止膜電位(拡散電位, 平衡電位)、確認テスト		神経の基本的な仕組みと機能について理解する。 静止膜電位の意味と発生の仕組みを理解する。						
2	活動電位, 閾刺激, 全か無の法則, 不応期, イオンチャネル 興奮の伝導(伝導の三原則, 跳躍伝導, 伝導速度)、確認テスト		活動電位の意味と発生の仕組みについて理解する。 興奮伝導の仕組みを理解する。						
3	神経系の機能: 神経系の成り立ち(反射弓, 体性神経系と 自律神経系, 末梢神経系と中枢神経系)、確認テスト		神経の反射弓の構成を理解する。 神経系を機能的に分類し、その働きを理解する。						
4	内臓機能の調節(交感神経系・副交感神経系, 自律神経 遠心性線維の伝達物質・効果器支配・分布と作用)、確認 テスト		自律神経と内臓支配の特徴を理解する。						
5	姿勢と運動の調節【高次機能(脳波, 覚醒と睡眠)】 確認テスト		姿勢と運動の仕組みについて理解する。 神経細胞の活動状態を脳波の波形から理解する。						
6	神経系の機能: 高次機能 確認テスト		認知、言語、意思などと連合野の関係及び働きが説明できる。						
7	感覚器の解剖1(外皮, 視覚器、聴覚器、平衡器、味覚器、 嗅覚器)、確認テスト		各感覚器の受容器と伝導路を含めた構造を理解する。						
8	感覚器の解剖2(外皮, 視覚器、聴覚器、平衡器、味覚器、 嗅覚器)、確認テスト		各感覚器の受容器と伝導路を含めた構造を理解する。						
9	感覚器の解剖3(外皮, 視覚器、聴覚器、平衡器、味覚器、 嗅覚器)、確認テスト		各感覚器の受容器と伝導路を含めた構造を理解する。						
10	感覚の生理学: 感覚の種類, 感覚の一般的性質, 体性感 覚 確認テスト		感覚の種類を理解する。 痛覚、触圧覚、温冷覚の特徴を理解する。						
11	内臓感覚, 嗅覚, 味覚 確認テスト		内臓感覚の特徴を理解する。 嗅覚、味覚の伝導について理解する。						
12	聴覚, 視覚(眼の構造, 結像の機序, 光受容機序) 確認テスト		聴覚の伝導について理解する。 視覚情報の受容について理解する。						
13	視覚(視覚伝導路と新皮質視覚野, その他), 前庭感覚 確認テスト		視覚の伝導について理解する。						
14	復習 確認テスト		復習を行う。						
15	期末テスト		テストにより効果測定を行い、習得度を把握し、理解度を深める。						
[評価について] 評価はmoodleで実施する確認テスト(20点)と期末テスト(80点)の合計100点で評価する。 評価は学則規定に準ずる。			[特記事項] 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。						

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科午後コース		学年	1	開講区分	後期	担当教員 石野 竜平先生	
授業科目名 高齢者・競技者の生理的特徴		必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2) 授業 回数 15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 専門分野の教員要件を有し、長年にわたり医療系専門学校の教育に貢献してきた教員が、柔道整復師として必要な人体の生理現象を講義する。柔道整復師は患者に医療行為を行うため、医療行為による効果やどのような現象が体の中で起っているのかを理解する必要がある。</p>							
<p>〔到達目標〕 生命現象を多彩な視点で取り扱う生理学は、解剖学と並び、医学の根幹をなす重要な学問領域である。本講義では、各組織の機能と人体の影響への関連性を理解する。内分泌系の機能、生殖について順に理解する。</p>							
〔使用教材、参考文献等〕 生理学(医歯薬出版)				〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習をしておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。			
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)			
1	消化と吸収1			消化器官系のはたらきについて理解する。			
2	消化と吸収2			消化液の分泌機序について理解する。			
3	消化と吸収3			消化について理解する。			
4	消化と吸収4			吸収について理解する。			
5	消化と吸収5			消化ホルモンについて理解する。			
6	消化と吸収6			肝臓と胆道について理解する。			
7	消化と吸収7			消化と吸収についてまとめる。			
8	復習			復習を行う。			
9	栄養と代謝1			代謝、中間代謝について理解する。			
10	栄養と代謝2			エネルギー代謝について理解する。			
11	呼吸の生理学1			呼吸器の機能的構造について理解する。			
12	呼吸の生理学2			ガス交換について理解する。			
13	呼吸の生理学3			血液中の酸素、二酸化炭素の運搬について理解する。			
14	呼吸の生理学4			呼吸を調整するしくみ、呼吸の異常について理解する。			
15	期末テスト 解説			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。			
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。 授業ごとに小テストを行う。				〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行う。			

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		学年	1	開講区分	後期	担当教員	
授業科目名						木下 潤一	
柔道 I		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1) 授業回数 15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 講道館柔道6段を持ち、江戸川区柔道会理事として青少年の育成および柔道普及に尽力している柔道整復師専科教員が、授業を通じて柔道の精神と健康な体作りを指導する。 授業の中だけでなく、日々の生活の中にも柔道の精神を頭において行動して欲しい。</p>							
<p>〔到達目標〕 柔道の礼法および精力善用、自他共栄の精神を身に付けさせる。相手の人格を尊重し受身をしっかり覚え、基本動作を身に付ける。</p>							
〔使用教材、参考文献等〕 柔道着				〔準備学習・時間外学習〕 初めて行う技術であるため、授業で行ったことを反復練習することによる、基礎的な技術の復習を行い、確実に身につけることが望ましい。			
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)					
1	型(浮腰)	実演して全体動作を習得する。					
2	型(払腰)	実演して全体動作を習得する。					
3	型(送足払)	実演して全体動作を習得する。					
4	型(支釣込腰)	実演して全体動作を習得する。					
5	形確認、寝技	浮腰、払腰、送足払、支釣込足の復習と寝技を習得する。					
6	形確認、寝技	浮腰、払腰、送足払、支釣込足の復習と寝技を習得する。					
7	技術復習	浮腰、払腰、送足払、支釣込足の復習と寝技を習得する。					
8	確認テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	形(肩車)と技(大内刈と小内刈)	実演をして全体練習を行う、技の崩し方と体さばきの説明をし習得する。					
10	形(釣込腰)と技(膝車)	実演をして全体練習を行う、打ち込みと約束練習を行い習得する。					
11	形(内股)と技(膝車)	実演をして全体練習を行う、打ち込みと約束練習を行い習得する。					
12	形確認	実演をして全体練習を行う、打ち込みと約束練習を行い習得する。					
13	形確認	実演をして全体練習を行う、打ち込みと約束練習を行い習得する。					
14	期末試験予備テスト	礼法と受身の確認、復習を行い習得する。					
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は実技試験で行う。 試験は確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。 授業ごとに小テストを行う。				〔特記事項〕 授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。 難しい技術などがあれば授業内で担当教員に積極的にアドバイスをもらうこと。			

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科午後コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員 大竹 千生先生	
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)
衛生学・公衆衛生学						授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>学生にとって到達目標である国家試験合格のために必要な知識習得を主な目的とした授業展開を行う。また、「衛生学・公衆衛生学」は、健康の保持増進や生活の質の向上の大切さを学ぶ科目であるため、それらの知識を活用し臨床における「健康へのアプローチ」を構築することを学生に望む。そのため、口腔衛生学会認定医として自身が学び実践する諸事項・諸事象を踏まえた「医療人として人々に貢する」ということを意識できるような授業を心がけ実施する。</p>							
<p>〔到達目標〕</p> <p>国家試験合格のための知識の習得とともに、現場に出たときに医療従事者として身に着けているべき考え方や教養、倫理観等の習得を目標とする。</p>							
〔使用教材、参考文献等〕 衛生学・公衆衛生学 (株)南江堂 発行 公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 鈴木庄亮・小川正行・横山和仁・黒沢美智子・竹内一夫・谷川武 著				〔準備学習・時間外学習〕			
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)			
1	公衆衛生学とは / 健康の概念			公衆衛生学の意義、健康の定義やアプローチ等を理解する			
2	人口統計 / 予防の概念			人口静態・動態統計と主な指標、予防の3相5段階について知る			
3	集団検診とスクリーニング / 感染症の概要			集団検診とスクリーニングの意義・特徴、感染症の基礎知識や成立の3条件について知る			
4	ウイルス感染症・細菌感染症・その他の感染症・院内感染			様々な感染症の特徴について知る。また院内感染の諸問題について理解する			
5	感染症の予防対策(感染症法による類型と届け出制、等)			感染症の予防の原則は3条件への対策であることとその内容について知る			
6	消毒			消毒・滅菌等の定義とその方法について知る			
7	1～6回のおさらい			1～6回の内容を振り返り、重要な部分を把握する			
8	環境衛生(環境保健)の概要/地球環境問題/環境の把握・評価			環境の分類、環境と人との関係性、地球環境問題、環境の分析法等について知る			
9	環境要因 確認テスト			主な物理的・化学的・生物的環境要因について知る			
10	公害 / 空気の衛生 / 環境への行政的な取り組み 等 確認テスト			空気の正常・異常成分、環境への政策や管理、最近の環境問題について知る			
11	生活環境;水・住居・食品衛生 確認テスト			水に関する環境、住居環境、食中毒について知る			
12	食品衛生活動・食品に関する法律とその内容/廃棄物処理 確認テスト			食の安全に関する行政施策やそのための法律と内容について知る。また、廃棄物の種類や処理法について知る			
13	母子保健の意義・指標			母子保健の意義、用語、諸指標について知る			
14	母子保健施策と前期の振り返り			市町村や都道府県が実施する母子保健施策について知る。また、前期を振り返り、期末試験に備える			
15	期末試験						
〔評価について〕 講義内容についての小テスト実施 / 期末試験 当初の前期中間試験実施を変更し、その分の評価を第9～12回の4回分での課題(小テスト形式)40点満点に変えるものとする。(期末試験は60点満点とする)				〔特記事項〕 適宜、プリント配布			

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	柔道整復師科 午後コース	学年	1	開講区分	後期	担当教員	
授業科目名						箭柏えり先生	
基礎柔道整復学 I		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2) 授業回数 15
<p>[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 柔道整復師の資格を持ち、臨床現場で経験を積み医療系学校の教育に貢献してきた柔道整復師専科教員が柔道整復学に関わる基本的概念・知識を教授する。</p>							
<p>[到達目標] 柔道整復学の各論を学び、外傷や障害に対する理解を深める。 傷害の程度によっては、患者に対しより重い責任を持つ事になり、そのためにも正しい知識を持つ事が重要となる。 傷病者に対して自信をもって処置を行うことを目標とする。</p>							
[使用教材、参考文献等] 柔道整復学・理論編 柔道整復学・実技編 (南江堂)				[準備学習・時間外学習] 専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習をしておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。			
回	[授業概要]			到達目標(できるようになること)			
1	肩甲骨の骨折①			肩甲骨の機能解剖を理解する。 肩甲骨体部骨折を理解する。			
2	肩甲骨の骨折②			肩甲骨上・下角骨折、関節窩骨折を理解する。			
3	上腕骨近位部骨折①			肩関節の機能解剖を理解する。 上腕骨骨頭骨折を理解する。			
4	上腕骨近位部骨折②			上腕骨解剖頸骨折、大結節単独骨折、小結節単独骨折を理解する。			
5	上腕骨近位部骨折③			上腕骨外科頸骨折を理解する。			
6	上腕骨近位部骨折④			上腕骨近位骨端線離開を理解する。			
7	確認テスト			肩甲骨骨折、上腕骨近位部骨折に関する問題演習を行い、自身の習熟度を確認する。			
8	肩関節脱臼①			肩関節脱臼の分類と、肩関節前方脱臼を理解する。			
9	肩関節脱臼②			肩関節後方脱臼、上方脱臼、下方脱臼を理解する。			
10	肩関節脱臼③			反復性肩関節脱臼を理解する。			
11	肩関節部の軟部組織損傷①			筋腱の損傷(腱板断裂・上腕二頭筋長頭腱損傷)を理解する。			
12	肩関節部の軟部組織損傷②			スポーツ損傷(ベネット損傷・SLAP損傷)を理解する。			
13	肩関節部の軟部組織損傷③			スポーツ損傷(肩峰下インピンジメント症候群・リトルリーガー肩)を理解する。			
14	肩関節部の軟部組織損傷④			不安定症(動揺性肩関節)、末梢神経障害、その他疾患を理解する。			
15	期末試験			テストにより効果測定を行い、習得できていない箇所を把握し、理解度を深める。			
[評価について] 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。 授業ごとに小テストを行う。				[特記事項]			

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	柔道整復師科午後コース	学年	1	開講区分	後期	担当教員		三浦 千栄先生	
授業科目名	柔道整復実技Ⅰ	必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30 (1)	授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>柔道整復師および日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの資格を持ち、接骨院やスポーツ現場での臨床現場で、怪我や負傷した選手の施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が、テーピングの基礎知識と技術を指導する。テーピングはどの現場においても必要な技術となるため自主練習に励み、1年間のうちにその基礎を養ってほしい。</p>									
<p>〔到達目標〕</p> <p>柔道整復師として、臨床で必要なテーピングの基礎知識とその技術を習得する。</p>									
<p>〔使用教材、参考文献等〕</p> <p>柔道整復学・理論編 (医歯薬出版) 柔道整復学・実技編 (医歯薬出版)</p>					<p>〔準備学習・時間外学習〕</p> <p>初めて行う技術であるため、授業で行ったことを反復練習することによる、基礎的な技術の復習を行い、確実に身につけることが望ましい。</p>				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	基礎知識の習得 切り方、持ち方、貼り方(アンカー)				テーピングの基礎を理解し、正しい扱い方の習得、太さの違う部位のアンカーを習得する。				
2	下腿・大腿部 肉離れのテーピング				肉離れのテーピング習得、合わせて切る、貼るの速度アップを習得する				
3	手関節・指関節のテーピング				手関節背屈制限のテーピングを習得する。母指、四指のテーピングを習得する。				
4	肘関節のテーピング				内側側副靭帯損傷、伸展制限のテーピングを習得する。				
5	膝関節のテーピング①				内側側副靭帯のテーピングを習得する。				
6	膝関節のテーピング②				前十字靭帯のテーピングを習得する。				
7	復習				これまでのテーピングの巻き方を復習し、正確に巻けるようにする。				
8	確認テスト・解説				テストにより効果測定を行い習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
9	肩関節のテーピング				肩関節前方脱臼のテープを習得する。				
10	足部・下腿部のテーピング				アーチ形成、踵、外反母趾などのテーピングを習得する。				
11	足関節のテーピング①				足関節のアンダーラップ、テーピングの走行を習得する。				
12	足関節のテーピング②				正しい走行、適度な固定力、きれいなテーピングの習得				
13	足関節のテーピング③				時間制限内で巻けるように習得する				
14	復習				これまでのテーピングの巻き方を復習し、正確に巻けるようにする。				
15	期末テスト 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
<p>〔評価について〕</p> <p>評価は実技試験で行う。 試験は確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。 授業ごとに小テストを行う。</p>					<p>〔特記事項〕</p> <p>授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。 難しい技術などがあれば授業内で担当教員に積極的にアドバイスをもらうこと。</p>				

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	柔道整復師科 午後コース		学年	1	開講区分	後期	担当教員		
授業科目名	基礎柔道整復学Ⅲ		必修/選択	必修	授業形態	講義	集中講座		
			時間数(単位)	30(2)	授業回数	15			
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 臨床経験を持つ柔道整復師専科教員が、柔道整復学に関わる基本的概念・知識を教授する。</p>									
<p>〔到達目標〕 柔道整復学の各論を学び、外傷や障害に対する理解を深める。 傷害の程度によっては、患者に対しより重い責任を持つ事になり、そのためにも正しい知識を持つ事が重要となる。 傷病者に対して自信をもって処置を行うことを目標とする。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学・理論編 (医歯薬出版) 柔道整復学・実技編 (医歯薬出版)					〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習をしておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	肋骨骨折1				概要と発生機序について理解する。				
2	肋骨骨折2				分類と合併症、予後について理解する。				
3	胸骨骨折				概要、発生機序、分類、症状、合併症、治療法、予後について理解する。				
4	胸椎の骨折				概要、発生機序、分類、症状、合併症、治療法、予後について理解する。				
5	胸椎の脱臼、胸・背部の軟部組織損傷				概要、発生機序、分類、症状、合併症、治療法、予後について理解する。				
6	腰椎の骨折・脱臼				概要、発生機序、分類、症状、合併症、治療法、予後について理解する。				
7	復習				習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
8	腰部の軟部組織損傷				概要、発生機序、分類、症状、合併症、治療法、予後について理解する。				
9	鎖骨骨折(1)				鎖骨の機能と解剖、特徴、発生機序について理解する。				
10	鎖骨骨折(2)				鎖骨骨折の症状、合併症、治療法について理解する。				
11	鎖骨の脱臼(1)				概要、発生機序、分類、症状、合併症、治療法、予後について理解する。				
12	復習				習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
13	鎖骨の脱臼(2)				概要、発生機序、分類、症状、合併症、治療法、予後について理解する。				
14	復習				ここまでの内容の理解を深める。				
15	単位認定試験				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テストと期末テストの合計点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行う。				

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科午後コース 授業科目名 外傷の保存療法	学年 1	開講 区分 後期	担当教員 中村 亮 先生	時間数 (単位) 15 (1)	授業 回数 8
[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 柔道整復師の資格を持ち、接骨院の臨床現場で、施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が、診察の 手順と骨折、脱臼の整復法、固定法の基本を学び、物理療法機器を体験してその取り扱いの講義を行う。臨床で必 要な知識や技術、経験談も踏まえ、より実践的な講義となる。					
[到達目標] 柔道整復師として診察から整復、固定、後療法まで一連の流れを考察し、外傷の保存的治療法を学ぶ。					
[使用教材、参考文献等] 柔道整復学・理論編 (医歯薬出版) 配布資料			[準備学習・時間外学習] 専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習をしてくる こと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ま しい。		
回	[授業概要]		到達目標(できるようになること)		
1	診察		施術録の扱いについて理解する。		
2	治療法1		骨折、脱臼の整復法について理解する。		
3	治療法2		軟部組織損傷の初期処置について理解する。		
4	治療法3		固定法について理解する。		
5	治療法4		後療法である手技療法について理解する。		
6	治療法5		後療法である運動療法について理解する。		
7	治療法6		後療法である物理療法(電気療法)について理解する。		
8	単位認定試験 解説		テストにより効果測定を行い、習得できていないところ を把握し、理解度を深める。		
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
[評価について] 評価は筆記試験で行う。			[特記事項] 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行う。		

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科午後コース 授業科目名 物理療法機器の取り扱い	学年 1 必修/選択 必修	開講区分 後期 授業形態 講義	担当教員 中村 亮 先生 時間数(単位) 15(1) 授業回数 8
[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 柔道整復師の資格を持ち、接骨院の臨床現場で、施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が、診察の手順と骨折、脱臼の整復法、固定法の基本を学び、物理療法機器を体験してその取り扱いの講義を行う。臨床に必要な知識や技術、経験談も踏まえ、より実践的な講義となる。			
[到達目標] 柔道整復師として診察から整復、固定、後療法まで一連の流れを考察し、外傷の保存的治療法を学ぶ。			
[使用教材、参考文献等] 柔道整復学・理論編(医歯薬出版) 配布資料		[準備学習・時間外学習] 専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習をしておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。	
回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)	
1	治療法(後療法)1	物理療法(温熱療法、伝導熱療法)を理解する。	
2	治療法(後療法)2	物理療法(輻射熱療法、変換熱療法)を理解する。	
3	治療法(後療法)3	物理療法(光線療法)を理解する。	
4	治療法(後療法)4	物理療法(寒冷療法)を理解する。	
5	治療法(後療法)5	物理療法(牽引療法)を理解する。	
6	治療法	指導管理について理解をする。	
7	外傷予防	外傷予防を段階別に(1～3段階)指導する方法を理解する。	
8	単位認定試験 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
[評価について] 評価は筆記試験で行う。		[特記事項] 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。必要に応じ配布プリントによる授業を行う。	

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午後コース		学年	1	開講区分	後期	担当教員		三浦 光一先生	
授業科目名		柔道整復実技 I		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30 (1)	授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>柔道整復師の資格を持ち、長年にわたり接骨院の臨床現場で、怪我や負傷した選手の施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が、包帯法と固定学の基礎知識と技術を指導する。包帯法は柔道整復師として絶対的に必要な基本的技術であり、他業種に負けない独自の技術である。そのため、自主練習に励み、1年間のうちにその基礎を培って欲しい。</p>											
<p>〔到達目標〕</p> <p>上肢と下肢の基本包帯法の習得を目指す。また実践を通じて包帯法の留意点や応用方法を理解する。</p>											
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕					
柔道整復学・理論編 包帯固定学(医歯薬出版)						初めて行う技術であるため、授業で行ったことを反復練習することによる、基礎的な技術の復習を行い、確実に身につけることが望ましい。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	冠名包帯1					デゾー包帯の習得をする。					
2	冠名包帯2					デゾー包帯の習得をする。					
3	冠名包帯3					ウェルポー包帯の習得をする。					
4	冠名包帯4					ウェルポー包帯の習得をする。					
5	冠名包帯5					ジュール包帯の習得をする。					
6	冠名包帯6					ジュール包帯の習得をする。					
7	総合復習1					今までの固定法、整復法について復習を行い、習得する。					
8	確認テスト					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	鎖骨骨折整復固定1					鎖骨骨折の整復法を習得する。					
10	鎖骨骨折整復固定2					副子を利用した包帯固定、8字帯を習得する。					
11	鎖骨骨折整復固定3					鎖骨の絆創膏固定法について習得する。					
12	肩鎖関節脱臼整復固定1					肩鎖関節脱臼の整復法を習得する。					
13	肩鎖関節脱臼整復固定2					肩鎖関節脱臼の副子を使用した固定法、テーピング固定法について習得する。					
14	肩鎖関節脱臼整復固定3					肩鎖関節脱臼の副子を使用した固定法、テーピング固定法について習得する。					
15	期末テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕						〔特記事項〕					
<p>評価は実技試験で行う。</p> <p>試験は確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計</p> <p>100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。</p> <p>授業ごとに小テストを行う。</p>						<p>授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。難しい技術などがあれば授業内で担当教員に積極的にアドバイスをもらうこと。</p>					

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午後コース		学年	1	開講区分	後期	担当教員		集中講座	
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>臨床経験を持つ柔道整復師専科教員が、骨折、脱臼のその症状と状態に準じた固定、包帯法を指導する。将来、臨床に出た際に必ず必要になる技術を学生のうちからしっかりと学び、有資格者としての準備をして欲しい。技術の反復練習を積極的に行ってもらおう。</p>									
<p>〔到達目標〕</p> <p>柔道整復師として一番の強みであり、仕事となる各骨折、脱臼に対する整復法、固定法を理解し習得する。</p>									
<p>〔使用教材、参考文献等〕</p> <p>柔道整復学・理論編 包帯固定学(医歯薬出版)</p>					<p>〔準備学習・時間外学習〕</p> <p>初めて行う技術であるため、授業で行ったことを反復練習することにより基礎的な技術の復習を行い、確実に身につけることが望ましい。</p>				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	上腕骨外科頸骨折整復固定1			上腕骨外科頸骨折の整復法・固定法について習得する。					
2	上腕骨外科頸骨折整復固定2			上腕骨外科頸骨折の整復法・固定法について習得する。					
3	上腕骨外科頸骨折整復固定3			上腕骨外科頸骨折の整復法・固定法について習得する。					
4	肋骨骨折固定法1			絆創膏固定法について習得する。					
5	肋骨骨折固定法2			さらしを使用した固定法を習得する。					
6	肋骨骨折固定法3			肋骨骨折の固定において、的確な固定ができる。					
7	復習			理解できていないところを把握し、整復法・固定法を習得する。					
8	肩関節前方脱臼整復固定1			肩関節前方脱臼の整復法を習得する。					
9	肩関節前方脱臼整復固定2			肩関節前方脱臼の固定法を習得する。					
10	肩関節前方脱臼整復固定3			肩関節前方脱臼において、的確な固定ができる。					
11	上腕骨骨幹部骨折整復固定1			上腕骨骨幹部骨折の整復法について習得する。					
12	復習			理解できていないところを把握し、整復法・固定法を習得する。					
13	上腕骨骨幹部骨折整復固定2			上腕骨骨幹部骨折の固定法について習得する。					
14	復習			理解できていないところを把握し、整復法・固定法を習得する。					
15	試験			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
<p>〔評価について〕</p> <p>評価は実技試験で行う。 試験は確認試験と期末テストの合計で評価する。 評価は学則規定に準ずる。</p>					<p>〔特記事項〕</p> <p>授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。 難しい技術などがあれば授業内で担当教員に積極的にアドバイスをもらうこと。</p>				

2020年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午後コース 授業科目名 臨床前施術試験等	学年 1	開講 区分 後期	担当教員 集中講座	時間数 (単位) 30 (1)	授業 回数 15
必修/ 選択		必修	授業 形態	実技	
[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 臨床経験を持つ柔道整復師専科教員が、臨床実習に望む前段階として、患者との良好な信頼関係を構築するための技術を教授する。					
[到達目標] 臨床の現場に出るにあたり必要なスキルを身に付けることを目的とする。					
[使用教材、参考文献等] 柔道整復学・理論編(医歯薬出版) 配布資料			[準備学習・時間外学習] 専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習をしておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。		
回	[授業概要]		到達目標(できるようになること)		
1	オリエンテーション		臨床実習の概要について理解し、全体像を把握する。		
2	医療面接①		患者を問診するにあたって必要になる知識を理解し、説明が出来る。		
3	傷害と評価(肩関節)		肩関節の重要な疾患の概要や評価を理解し、実践することが出来る。		
4	可動域測定		測定法や関節可動域表示が評価・診断書等に活用されることを理解する。		
5	医療面接②		問診の仕方、問診表を理解し、書くことが出来る。		
6	傷害と評価(肘関節)		肘関節の重要な疾患の概要や評価を理解し、実践することが出来る。		
7	医療面接③		問診の仕方、問診表の書き方を実際のロールプレイングを通じて理解し、実践できる。		
8	傷害と評価(腰)		腰部の重要な疾患の概要や評価を理解し、実践することが出来る。		
9	傷害と評価(膝関節1)		膝関節の重要な疾患の概要や評価を理解し、実践することが出来る。		
10	傷害と評価(膝関節2)		膝関節の重要な疾患の概要や評価を理解し、実践することが出来る。		
11	医療面接④		問診の仕方、問診表の書き方を実際のロールプレイングを通じて理解し、実践できる。		
12	傷害と評価(足関節)		足関節の重要な疾患の概要や評価を理解し、実践することが出来る。		
13	復習		問診から評価までの流れを理解し、実践できる。		
14	復習		問診から評価までの流れを理解し、実践できる。		
15	単位認定試験 解説		テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。		
[評価について] 評価は実技試験で行う。 試験は合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。授業ごとに小テストを行う。			[特記事項] 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行う。		